

平成29年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立武蔵台高等学校長 印

学校運営計画(4月)			評価 (総合)
学校運営方針	校訓「好学・自主・敬愛」の下、生徒の自主的な学習と創造的な活動を促進し、自他に対する敬意の啓発に努め、天拝山登山に象徴される本校伝統の「継続は力なり」の精神を育成することで、教育方針である「個人の持つ資質・能力の啓発、涵養」「強靱な心身の鍛錬、陶冶」の具現化を図る。また、加盟9年目となるユネスコスクールの活動を推進し、国際理解教育、地域歴史文化教育をさらに充実発展させる。		A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
生徒一人一人に自己理解を深めさせ、自尊感情を育む過程で高い志を持たせる。その目標を達成するための恒常的な取組、継続的な努力を続ける指導、支援を行い、有為な人間を育成する。	学習指導の充実	生徒の中学時の学力や学習習慣と生活習慣に対する認識を共有し、高校段階での『文武両道』を達成させるため、教科教育と人格教育の両立に必要な手立てを各学年、各分掌で検討し実行する。	
	生徒指導の徹底	「信頼と愛情に基づく指導」の精神をもって、規則の遵守、服装の調和などを個々の場面で即座に指導し徹底を図ることで規範意識を育成するとともに、共生社会の一員として、自己と他者を尊重し、差別やいじめを許さない人権意識を育てる。心身共に健康で安全安心な学校生活をおくるため必要な物心両面の環境整備に努める。また『凡事徹底』を年間指導として継承し「時を守り」「場を清め」「礼を正す」という基本的生活習慣の確立を図る。	
	進路指導の発展	人生の目標としての「志」を持たせ、自己実現に至るプロセスとしての卒業時の希望進路実現を全日制普通科である本校の生命線と捉え、その達成に向けた指導に全職員をもってあたる。	
	地域社会の信頼と協力に基づいた学校づくり	在校生保護者や中学生、地域社会の信頼と協力を得るため、情報発信を積極的に行い広報活動の拡充に努めるとともに、説明責任を十分に果たし、学校自己評価、学校評議員制度を活用し外部評価を取り入れ、教育活動の改善・活性化を目指す。	
	国際理解・地域歴史文化教育の充実	天拝山登山、フィールドツアー、海外修学旅行、海外派遣研修等を本校の特徴的教育活動として位置づけ、本校ユネスコスクール活動の根幹である国際理解教育、地域歴史文化教育の更なる充実を図る。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	学力向上	好学プロジェクトについて、過去3年の成果と反省を踏まえ、実施形態や内容について再検討する。	A	先生方の協力で、一定の成果を上げている。基礎力と応用力の両方を身につけさせるために、教務課がリーダーシップをとり、進路課などと連携して組織的に取り組む。
		基礎から積み上げる学びだけではなく、応用的な課題を示し、それを解決するための基礎を学ぶこと(上から降りてくる学び)のあり方を模索する。	B	
		課題の内容や出し方を工夫し、自宅学習の習慣と学力の定着を図る。	B	
		生徒が日常的に教員に質問ができるような環境整備と関係づくりを奨励する。	A	
	基礎学力の定着	全校生徒の5割以上が出席皆勤となるように、各学年と協力する。	A	各学年、各教科の協力により、全校での出席率は98.7%であった。1年1学期中間考査で中学校以前の学習内容も出題するなど、好学プロジェクトをさらに充実させる。その問題を本校独自アンケートとしてまとめる。
		各教科が使用する教科書の内容を、確実に理解させ身に付けさせる。	B	
		生徒が学ぶ楽しさを実感し、かつ深い学びが実現する授業の創造を目指して、アクティブラーニング(AL)や特別支援教育の視点の導入、ICTの活用を推進する。	B	
		各学期中間考査後に追指導を実施して、生徒全員に基礎・基本を習得させる。	A	
	授業規律の確立・維持	生徒の実態把握のために、新入生対象の本校独自のアンケート(中学時代の学習の仕方や体験など)を、平成29年度中に開発する。	C	始礼・終礼の黙想については、全校集会で「黙想」の号令と同様定着したが、授業の5分前着席は徹底できていない。校内の清掃や学習道具持ち帰りについては全校挙げて改善に取り組むべき課題である。
		「環境が人をつくり、人が環境をつくる」という考え方のもと、教室及び校内の環境整備に努める。(場を清める)	B	
		家庭学習を勧め、教室環境整備のため、教科書・教材を置いて帰ることを根絶に努める。	B	
		授業開始5分前・定期考査での予鈴着席を徹底させることで、教材と心の準備をさせる。(時を守る)	B	
	ユネスコスクール活動の充実	始業・終業時には心を込めて挨拶をし、その後の黙想で気持ちを集中させる。(礼を正す)	A	400回記念天拝山登山を成功させることができた。次年度は、ユネスコスクール活動を本校のブランドイメージとして確立したい。各生徒に課題を考えさせ、年度末に振り返りをさせる探究的活動を充実させる。
		九州の小中高で最初にユネスコスクールに加盟したことを誇りとし、ユネスコスクール活動の充実・深化に努める。	B	
		400回を迎える天拝山登山を記念行事も含め成功させる。	A	
		各学年と協力し、地域歴史文化教育を確実に実施する。	A	
企画庶務課	各部・学年と連携し、円滑に学校運営が行えるよう努める。また、活気ある学校作り推進のために、各行事の企画に携わる。	ユネスコスクール講演を充実させる。	A	・各部・各分掌との連携を図り、2か月分の行事予定を毎月月末に配布できた。次年度も、早めの調整をしながら、全職員の共通理解を図れるようにする。 -「学校要覧」「入学のしおり」については、計画通り、発行が出来た。 -会議についても欠席者への情報提示等適切に行えた。 -40周年に向けての準備は、具体的には取り組めていない。準備委員会の発足を受け、次年度は、円滑に準備ができるよう調整を行っていく。
		武蔵台ESD(=Education for Sustainable Development(持続可能な開発の為の教育))を確立する。	B	
		各部・各学年との連携を密にし、調整を行い、行事予定を月開始時に2か月分、提示・配布し、全職員の共通理解を図るとともに、保護者への周知を図る。	A	
		各部・各学年との連携を密にし、学校行事に関する要項を、適切な内容で企画し、適時に提示・配布し、全職員の共通理解を図る。	A	
	同窓会・PTAとの連携を深め、各活動のサポートを行う。	学校要覧・入学のしおりが適時に発行できるよう、各部との連絡・調整、スケジュールの管理を行う。	A	PTA・同窓会とも十分な連携は取れた。PTA研修会で本校の発表も無事終了し、全学年合同懇談会への保護者の参加も増えた。PTA総会の出席者の増員はできていない。保護者のPTA行事への関心を高める工夫が必要である。
		職員全体への共通理解が図れるよう、会議録の保存、会議欠席者への情報提示を行う。	A	
		40周年に向けて、校史編纂の準備として、資料の保存・整理を行う	C	
		PTAとの連携を図り、PTA全体の行事や、各分掌と連携したPTA各委員会活動のサポートを行う。	A	
	職員室・更衣室等の整備を行う。	PTA総会・全学年合同懇談会等、PTA関連行事への保護者参加数を増加させる工夫を行う。	B	職員室の環境整備ができ、応接室等も使用しやすくなった。今後は、さらなるよい環境が保てるよう整備をしていく。
		同窓会と連携を図り、同窓会総会、同窓会入会式等の行事の運営をサポートし、同窓会全体の活性化に協力する。	A	
	奨学金に関する業務を適切に行う。	事務室・保健環境課と連携し、職場の環境整備に努める。	A	A
		各種奨学金について、適時、職員・生徒に情報を提供し、状況に合ったサポートを行う。	A	A

生徒指導課	基礎学力の定着・向上のため、信頼と愛情に基づき、規律のある学校生活・学習態度がとれる生徒の育成。生徒個々に対して、きめ細やかな指導。	礼節を重んじ、生徒心得を基本とした集団生活のルール・マナーを確実に実践させる。	A	A	定期的な風紀指導で各学年共に風紀の乱れはほとんどない。数名の生徒に手が掛かっているが根気強く指導を行っていきたい。今後も積極的な生徒指導を心掛け、安心・安全な学校づくりを目指す。
		授業の開始時に、身だしなみチェック・「黙想」とともに教室環境整備も行う。	A		
		生徒を中心とした生活指導に力を入れ、職員も機会を逃さず、個に応じた指導を行う。	A		
	ユネスコスクール活動や様々な学校行事を通して、愛校精神や郷土愛を育み、清らかで義理・人情に厚い生徒の育成を図る。「いじめ」や不登校生徒に素早く対応し、信頼に応える。	生徒会各種委員会を機能的に活動させ、リーダーシップの育成を図る。	B	A	相手の気持ちを考えきれない生徒や自分の意見や考えを持っていない生徒が増えている。生徒同士が上手いくためのコミュニケーション力を高める指導を行う。天拝祭や体育祭の企画・運営では、生徒会役員を中心に生徒の自主性は育っており、来年度、さらに伸ばす。生徒支援委員会をもっと充実させる。
		生徒会や部活・クラス単位で、挨拶運動を実践し、また、天拝小との合同挨拶運動などで全校生徒への啓蒙活動を行う。	A		
		生徒主導による天拝祭実行委員会・体育祭実行委員会の自主的活動。	A		
		学校いじめ対策基本方針を職員に周知徹底し、毎月いじめアンケートを実施や校内巡回を行い、生徒を見守る機会を増やし、安全を確保する。、早期発見に努める。	A		
		生徒支援委員会での情報を共有し、不登校生になりそうな生徒の未然防止。	B		
	集会や部活動等の活動を通して、集団への所属意識や連帯感を高め、地域や保護者と校内諸係との連携を深め、健康で信頼される人間性を育成する。	本年も部活動体験入部期間を設定し、昨年5月時の加入率81%を上回るように指導する。	A	A	部活加入率は例年を上回った。活動場所や更衣場所など施設面の改善、部活動顧問の指導時間を確保する必要がある。天拝小学校との交流は、地域からも好評を得ており、本校生徒も得るものが多いので、さらに充実させる。
		天拝小学校と合同の挨拶運動を年間3回実施と7月末の天拝小学校のサマースクール参加および年1回の交流天拝山登山の実施。	A		
		PTAの生活委員会と連携し、校外補導および交通指導の実施。	A		
	あらゆる機会を通じて、生徒の安全に対する認識を深めさせ、危機管理能力を育成する。	自転車通学生に対して、自転車の整備点検と安全指導を行ない、平日頃より担任から機会あるごとに指導し、交通事故0を目指す。	B	B	今年度は、2回の交通教室を行い登下校の苦情は例年より少なかった。しかし、自転車事故は減少していない。来年も生徒のモラル意識をもっと高める必要がある。スマホなどによる、SNSや掲示板の書き込みについては、外部講師で講演などを継続していき、軽く考える生徒の意識を変え、未然防止に努める。問題が発覚したときは、早い段階で指導し、大きな問題にならないようにする。
交通マナーについて、交通安全教室の実施や担任から朝礼等で指導をする。		A			
携帯・スマホの正しい利用方法に触れ、講演等によりSNSや掲示板の危険性を理解させる。		A			
事故や苦情が発生した場所やマナーについて、昇降口掲示板を使い、視覚に訴える指導を行う。		B			
保健環境課	校内美化とゴミの持ち帰りの推進を通じて、愛校心や公共施設を大切にすることを養う。	ゴミの持ち帰りの推進・古紙回収の推進を行う。	B	B	日々の清掃の時間はもとより、美化週間をきっかけとして、清掃への意識付けが出来るように、美化委員会の活動を活発にする。
		美化委員会の活動を通して校内美化の意識を高める。ゴミ集積場管理を行う。	B		
		美化週間の実施を通して美化意識の向上を図る。(1・2学期実施)	A		
	教員と生徒との信頼関係を確立する支援を行う。	生徒支援委員会の年20回以上行う。	A	B	支援委員会は週に1度のペースで生徒の情報交換を行っているが、SCや養護教諭との連携をさらに加えて生徒の支援を実施していく。生徒個別の支援方法を検討する。
		担任会・学年会・分掌会と生徒支援委員会との情報交換・支援を行う。	B		
		特別支援コーディネータとして、支援の必要な生徒へのケアに努める。	C		
	危機管理体制の充実を図り、行事等における事故防止。	SCを通じて、生徒の抱える問題の深刻化を防ぎ、心のケアに努める。	A	A	避難訓練では、消防と連携し訓練を実施した。また、健康相談に関しては、事故防止のためにその都度実施しており、体育祭でも大きな事故や、熱中症もなかった。安全点検は、3度の実施できた。
		防災避難訓練やLHRを通して、生徒の避難体制の徹底を図る	A		
		宿泊研修や行事前に「健康相談」を実施し、事故防止に努める。	A		
	生徒の基本的な生活習慣の確立を目指し、健康管理に努めさせる。	保健委員会の活動として、保健だよりの発行を10回以上する。	A	A	養護教諭、委員会を中心に活動し、夏の宿泊研修や日々の保健委員会の活動を通して、生徒の自主的な健康管理を務めさせることが出来た。ペルマークの収集の周知徹底を図る。
保健委員会の研究活動を今後も継続して行う。(学校保健会、文化発表会)		A			
ペルマーク回収等の活動について、委員会で検討して行う。		B			

進路指導課	<1学年>キャリア教育の充実を図り、職業観を育成しながら、将来の進路目標を設定させる。	進路学習において、進路希望調査を定期的に行い、将来の目標を設定させる。	B	B	生徒の進路意識を高めることができた。個々の生徒の具体的な目標の育成が課題である。キャリアワークショップは好学プロジェクトとより一層関連づけながら、実施時期の検討が必要である。小論文の事前指導は、最近の入試傾向を踏まえ、2時間の実施が望ましかった。
		好学プロジェクト大学研究において、講義内容や就職先から、進路意識を高めさせる。	A		
		適切な進路選択を行わせるために、理系・文系双方の学部・学科の知識を学ばせる。	B		
		進路学習において、自分年表を作成させ、キャリアプランニングの意識を持たせる。	C		
		キャリアワークショップを行い、将来の職業観を確立させる。	B		
		小論文講演会とリポートを行うことで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	B		
	<2学年>探究心、向学心を育てる指導を通して、進路目標を実現するための具体的な方策を設定させる。	実用英語技能検定試験の受検を奨励し、外部試験活用入試の準備を行わせる。	B		
		各種合同大学説明会に出席させることで、各大学の知識を身につけさせる。	C		
		夏季休暇中のオープンキャンパスに2校以上参加させ、大学の雰囲気を経験させる。	B		
		志望する系統のキャンパスワークショップに参加し、大学の教育内容を体験させる。	A		
		小論文講演会とリポートを実施し、思考力・判断力・表現力の更なる育成を図る。	A		
		進路希望調査を年間2回行うことで、3年生に向けたコース選択の意識を図る。	B		
<3学年>進路実現に向けての方策を実行し、各生徒の進路希望の実現を達成する。	修学旅行後に大学での学習会を実施し、受験生への意識の切り替えを行う。	C			
	実用英語技能検定試験の受検を奨励し、外部試験活用入試の意識を持たせる。	A			
	校内大学入試説明会を2回実施し、合格に向けた生徒への情報提供を行う。	A			
	大学での学習会を実施し、長時間の学習習慣と入試に対する意識を高める。	C			
	校内・校外での自習室や学習スペースでの自習の励行を積極的に進める。	A			
	入試関連の書籍の貸し出しを積極的に勧め、緻密な入試対策を行わせる。	A			
課外授業の充実	AO・推薦・国公立二次での面接・小論文対策を計画的に行う。	B			
	公務員・看護志望者に模試を受験させ、合格に向けた弱点補強を行う。	A			
	実用英語技能検定試験の受検を奨励し、外部試験活用入試を積極的に利用させる。	A			
	(1年)課外授業の習慣と95%以上の出席率を目指し、国・数・英の実力をつける。	A			
	(2年)課外授業での95%以上の出席率を目指し、国・数・英・理・社の実力をつける。	A			
	(3年)課外授業での95%以上の出席率を目指し、入試実践力を養う。	B			
情報発信及び進路室の有効活用	生徒への進路情報の提示と中学校への進路実績のアピールを行う。	A			
	生徒が積極的に進路室を活用できるように、書籍・資料の充実を行う。	A			
	データ処理を含め、分掌内の教員のスキルアップを図る。	B			
	PTAの大学見学を通じて、四年制大学への理解と進学希望者数の増加を図る。	B			
	職員研修を実施し、職員全員でホームページの更新ができるようにする。	A			
	更新頻度をあげ(年間50回以上)、教育活動を外部へタイムリーに発信していく。	A			
情報広報課	ホームページの充実を図る。	部活動のページの更新を学期に1回以上行い、内容の充実を図る。	B	A	行事・ニュースごとにホームページの更新を行い、年50回以上の更新を行うことができた。年度更新が遅れ、指摘を受けることがあった。4月中には、新年度の内容に確実に切り替える。部活動ページの更新を定期的に行い、内容の充実を図る。
	「634ニュース」を用いて、中学校へ本校の教育活動を積極的にアピールする。	「634ニュース」を毎月発行する(8月、2月、3月は除く)。	A	A	計画通りに634ニュースの発行を行うことができた。また、全職員の協力により各中学へ毎月届けることができ、本校のアピールができ、生徒募集の一助となった。来年度も今年度同様のペースで634ニュースを作成し、各中学校へ届ける。
		「634ニュース」を各中学へ持参し、全職員による月1回中学校訪問を実施する。	A		
	校務用パソコンの円滑な運用・電子黒板の管理とICT授業への活用。	校務用パソコン、校務用サーバ、校務用ネットワーク、授業用パソコンのセキュリティ対策を確実に進行。	A	A	2台目の電子黒板が導入され、操作方法の講習、管理方法を全職員に理解していただいた。積極的に授業に活用できる環境を整える。
		プロジェクターや、デジタルカメラ、ビデオカメラ等の管理を徹底し、ICT授業を行いやすい環境を整える。	A		
弘報「天拝」の作成と、メール配信システムの有効活用。	電子黒板2台の管理と円滑な運用を行い、積極的に授業で活用できる環境を提供する。	A	B	弘報天拝で名前等にミスがあり、発行が遅れた。来年度このような同じミスがないよう行う。メール配信システムで保護者へ行事や、定期考査の日程等を通知する。メール配信システムへの加入者は全体で92%である。	
	PTA広報委員会と協力し、弘報「天拝」を作成し、保護者への教育活動を発信、報告を行う。	B			
	メール配信システムを有効活用し、緊急連絡や保護者へ学校行事等の連絡を密に行う。	B			
	メール配信システムへの加入者9割を目指す。	A			

研修部	研修課	授業研修に取り組み、授業力を向上させる。	研修主題に基づいた授業研究を行い、授業力向上・授業改善に活かす。	B	B	授業研究や中間若手教員相互授業参観の実施状況は改善された。AL型授業やICT活用は行われているが、他校の事例研究や研修会が必要である。マークシートを用いた授業アンケートは手順が確立し順調に行われた。分掌の業務として組織的に実施する。
			学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科の授業においては言語活動を取り入れたり、AL型授業やICT活用が積極的に行われるようにし、授業力向上を目指す。	B		
			生徒授業評価アンケートを年2回実施し、データ分析をするとともに、その後の授業改善に活かす。	A		
			中堅若手教員相互授業参観を実施し、中堅若手教員の指導力の向上を図る。	B		
	朝読書の推進による	本校の課題解決に向けて効果的な職員研修会(年5回)を企画し、実施する。 教師力を高めるため、教育センターや予備校等、校外研修会等を職員に案内し参加を促す。 基本研修対象者が計画的に研修を行えるようにし、対象者の指導力を向上させる。	本校の課題解決に向けて効果的な職員研修会(年5回)を企画し、実施する。	A	B	AED研修、HP研修、キャリア教育と例年なかった研修テーマで職員研修が実施できた。今後も実態に即した職員研修を実施する。基本研修は順調に行われた。
			教師力を高めるため、教育センターや予備校等、校外研修会等を職員に案内し参加を促す。	B		
			基本研修対象者が計画的に研修を行えるようにし、対象者の指導力を向上させる。	B		
			人権学習を年間計画に基づいて実施する。(1・2年生～年間3回、3年生～年間2回)	A		
	図書課	図書の活性化と読書活動の導入	人権学習の指導案に関しては、十分な審議を経て作成し、反省を行い、次年度に活かす。	A	A	人権学習の教材、指導案を例年と一部変更した。実施後の検証を継続的に行う必要がある。
			授業をはじめ、あらゆる教育活動において人権尊重の基本姿勢を培う指導を心がける。	B		
			全職員で朝読書の意義・目的を理解し、朝読書の徹底を図る。時間の確保にも努める。	A		
			NIE(newspaper in education)を適宜導入し、新聞記事を読ませる機会を設ける。(月に一回程度)	C		
図書課	朝読書の推進による	教員からお勧めの本の意見を寄せて、生徒に適宜発信することに努める。	C	B	朝読書は先生方の協力で、きちんと時間確保が出来た。生徒も落ち着いて読書できている。新聞を読ませる取組は一部のクラス内で出来たが、全体への広がりはなっていないので、これから取り組む。図書委員の積極的な活用を考える。	
		図書委員会活動を活性化させ、図書館便り(年一回・年度末)、ライブラリーニュース(年三回)、及び司書教諭便り(ライブラリーニュースplus・年三回)の発行を行う。	A			
		図書委員による文化祭展示・ポップ作成などを行い、生徒による読書推進を図る。	A			
	図書の活性化と読書活動の導入	一人あたりの年間貸し出し冊数目標をを平均三冊以上とする。(参考:平成28年度は3.64/一人、貸し出し総数4373冊)	C	A	計画通りに実施できた。図書祭では図書委員がポップ作りを行った。文化祭は古本市など実施して盛況であった。今後も図書館利用の啓発を進めていきたい。貸し出しは一月時点で2670冊で低かった。	
		図書祭(昨年:読書活動・ブックカバー作り)を企画し、多読者の表彰を行う。	A			
		図書資料検索システム(現在CASA)の変更・更新を検討する。(windows10対応機種導入)	A			
検索資料の充実・拡大を図る	授業での図書館利用(調べ学習など)の機会を増やせるように、資料の精選・検討・要望調査などを行う。	A	A	図書館検索システム「探検隊」を導入することが出来た。前システムは段階的に閉じていくため、返却を徹底する。		
	生徒の情報検索のため、パソコンを一台、図書館に導入する。	A				
	研究紀要の作成	B				
第一学年	規律ある生活習慣の確立と規範意識の醸成	研修参加者を中心に、各行事担当者から、研修紀要に論文を集める。	B	B	紀要は早く原稿集めをはじめめるようにする。紀要原稿は2月には締め切る。文化的案内は出来た。図書館にも資料があることを広報する。	
		期日を早めに設定し、年度内に配布出来るようにする。	B			
		文化的研修の案内(美術館の案内など)を行い、研修の機会の周知を図る。	B			
		家庭との連携を図り、出席皆勤(200名以上)を目指す。	B			
		挨拶の励行と、高校生らしい言動を心掛けさせる。	B			
		清掃の徹底を通して、学習環境を整えさせる。	A			
	学習習慣の確立と進路目標の明確化を図り、将来への視野を広げる	提出物等について期日までの100%提出を徹底させる。	B	B	・特に課外や土曜セミナーの遅刻・欠席を減少させる取組が急務である。 ・二者面談の時間を十分に設け、生徒指導や進路指導など、個に応じた指導の機会とする。 ・風紀指導について再検査まで不合格となったり継続指導の対象となったりするような生徒はほとんどいない。次年度も引き続き学年全体で指導を行う。	
		二者面談やL.H.R.を有効活用し、個に応じた指導を行うことで転退学者0を目指す。	B			
		交通ルールやマナーを守らせ、当たり前出来るように継続的な指導を行う。	A			
		継続的指導を通して、規範意識を持たせる。	A			
		授業に対する姿勢を大事にさせる。(教材教具の管理、予習・復習、態度)	B			
		週末課題等を充実させることで学習習慣の確立を目指す。	B			
武蔵台高校生としての自覚をもたせ、所属意識、連帯感の高揚を図る	校外模試の対策に取り組むことで進路意識を向上させ、各教科平均点偏差値50以上を目指す。	C	B	学習に対する意識の差が成績に表れており、個別に課題を与えるなどの対策が必要である。 ・教科担当と担任が連携を密にし予習や課題が習慣となるよう促す。 ・模試に対する意識が低い。模試対策を体系的に実施し模試の重要性を認識させる。		
	進路学習を通してコース選択についての確かな指導を行う。	A				
	キャリアワークショップを通して、将来像をイメージさせることで進路目標を明確にさせる。	A				
	学校行事・委員会等への積極的参加を奨励させ、達成感を味わわせる。	A				
	体育祭、天桜祭を通してリーダーを中心に活動させることで学年、クラスの連帯感を高めさせる。	A				
	天拝山登山・地域歴史文化事業を通して、地域の歴史に触れることで理解を深めさせる。	B				
学校生活のあらゆる場を通して人権意識を涵養し、心身の健全な発達を図る	部活動加入率80%以上を目指す、文武両道を実践させる。	A	A	・体育祭や天桜祭が学校やクラスへの所属意識や連帯感を高める良い機会となった。次年度のリーダーの育成が課題である。 ・建設的な反省をし行事の精査を行う。		
	学校生活全般を通じ、他者を敬う態度を育成し、いじめのない安心安全な学校を目指す。	A				
	生徒支援委員会・学年・部活動顧問と連携することで情報の共有に努める。	A				
	学年通信の定期的な発行と家庭との適切な連携により協力体制を構築する。	A				
	学年集会やHRIにおいて携帯電話・スマートフォンの正しい活用について指導する。	B				
	担任会はもちろん職員間で報告、連絡を徹底し問題の早期発見、早期解決に努める。	A				

学年経営部	第二学年	担任団と生徒の間に尊敬の念が循環する良好な人間関係を構築する。	二者面談やLHRを有効活用し、個に応じた指導を行う。	A	A	各クラス適宜二者面談を実施し生徒状況の把握に努めた。また、保健室および教員間の状況共有も行われていた。
			家庭や保健室及びSCとの連携を深化させ、前向きな学校生活を確立させる。	A		
			生徒の状況や情報を教員間での共有を意識的に行い指導に活用する。	A		
		学習における基礎基本の定着とともに理解力を深化させ、学力の向上を図る。	学力の向上は授業が基本であるという認識を持たせ。予習、復習の励行や教員教材の管理、期日や時間の厳守など授業に臨む真摯な態度を育成する。	B	B	教室環境の学習環境の向上を今後とも図っていかなければならない。体育祭期間中各教科連携して課題を実施することができた。来年度は学年の目標をさらに明確にして連携した学習課題を企画する。
			各教科間で適切な課題量の調節を行うことにより、確実な学習時間の定着につなげる。	B		
		向上心を涵養し、より高い進路目標を具体的に設定させる。(進路目標福岡大学200名以上 西南大学100名以上 国公立大学30名以上)	キャンパスワークショップに向けて大学に関する情報の提示や進路研究を行わせ、その研究成果等を発表する機会を設けることにより進路意識を向上させる。	B	B	キャンパスワークショップを通じて進路意識を向上させた生徒が多かった。課外・土曜に対する学習態度は来年度も指導の余地がある。「進路通信」は内容の充実を図り来年度も引き続き発行する。
		課外や土曜セミナーに対し真摯に取り組む態度を育成する。	B			
		模試結果の分析から生徒状況を把握してその内容を「2学年進路通信」として発行する。	A			
	中核の学年としての自覚を深めさせるとともに、高校生としてのソーシャルスキルを身につけさせる。(出席皆勤200名以上を目標とする。)	挨拶や言葉遣いの指導を通じて社会人としての基礎基本を確立させる。	B	B	校内のリーダーとしての自覚や態度そして心構えが育成されているとはいえ、学校行事等を通じて涵養していくことが来年度の課題である。日常的な学校生活においては、清掃や挨拶の励行など「凡事徹底」を目標として生徒の指導を心がける。	
		学校行事等において、リーダーとなる生徒や、その場の状況を踏まえて自ら考えて積極的に行動する生徒を育成する指導を行う。	B			
		清掃だけではなく日常的に身の回りや教室環境を整えさせる指導を行う。	B			
		冬期集団宿泊訓練までに最上級武蔵台生として完成させるため、生徒・教務・進路等各分掌が連携してあらゆる準備を行う。	B			
学校生活のあらゆる場を通して人権意識と自己肯定感を高揚させ、心身の健全な発達を図る。	各行事ごとに到達目標を設定させ、それに向けて努力をさせることにより、人間的成長を促す。	B	B	冬期集団宿泊研修を通じて他者を思いやる意識や自尊感情の育成につながった。		
	学校生活全般を通じ、他者を顧みて尊重することができる生徒の育成に留意する。	B				
	学校行事を通じ愛校心を育成し、自尊感情や規範意識を涵養する。	B				
第三学年	希望進路の実現 目標 国公立20名 福岡大学150名 西南学院大学50名	家庭との連携を重視し、生徒のわずかな変化にも適宜適切な指導を行う。	A	A	二者面談を行いながら、進路先を検討できた。課外や土曜セミナーでは、各教科毎に話し合いをしながら生徒の実態に応じた内容で実施することができている。今後は生徒が受験に集中できる環境を作っていくため、補習や土曜セミナー等の工夫を図る必要がある。	
		二者面談やキャンパスガイダンスを通じて、具体的なかつ早期の進路先検討を行い、三者面談を実施する。	A			
		校外模試等の結果を受け、個別の指導を行う。	B			
		課外、土曜セミナーの内容と方法の工夫を行う。	B			
	教科教育と人格教育の両立	希望進路を実現させるために、家庭学習時間の調査結果を踏まえ、個々の学習習慣の状況に応じた具体的な指導を行う。	B	A	学校行事を通じて、リーダーとしての資質を養うことができた。昨年に比べて体調を崩す生徒は減り、落ち着いた学校生活を送ることができている。今後は進路先のレベルアップを図ることが課題である。	
		各教科が連携をし、より高いレベルの進路先を目指す指導を行う。	B			
		生徒会執行部を中心に、天桜祭、体育祭等を通じてリーダーとしての資質の向上を図る。	A			
	規範意識・人権意識の育成	健康面、生活面について自己管理ができるように、関係機関との連携を図る。	A	A	挨拶や清掃活動については、きちんと行うことができるようになっている。学校行事を通じて、リーダーを中心に、5分前行動や言葉づかい、身だしなみなどについて注意し合える雰囲気作りを行った。進路先が決定した生徒等が安易な考えに流されないように指導していく必要がある。	
		挨拶の指導については、教員間の共通理解を図ることで指導の徹底を行う。	A			
		生徒と一緒に清掃活動を行う。不十分であればやり直しをさせる。	A			
		遅刻・欠席者の状況把握とその指導を徹底する。出席皆勤者は、昨年を上回る200名を目指す。	B			
	家庭・地域社会との連携	5分前考動、言葉づかいや身だしなみについての指導を徹底する。	A	A	計画的に学年通信を発行することができている。	
社会のルールを守るように日常的な指導を行う。		A				
年間5回発行の学年通信を通じて、学校生活の様子や進路情報を保護者に知らせる。		A				
	家庭との連携を密に行い、具体的に有効な生徒支援を実施する。	A	A			

A: 十分に達成された B: 達成された C: 達成されなかった